

唐船どーい

(初級 3/3)

注1：この曲の中で最も大事な音「七」です。これが二弦と綺麗に共鳴しているかどうかで、聞き手の第一印象が変わります。
特に①の6拍目の「七」は大事です。

共鳴した

注2：五→尺（この歌は尺と尺#の間）は、届かない場合はスライドして下さい。あせらず正確な位置の「五」をしっかり鳴らして、その後スライド、「尺」に小指が着地した時も人差し指は弦を押さえたままです。上→尺 も同じです。

人差し指が弦から離れなかった

注3：三線につられて、唄が下がってしまいやすいところです。下がらないようにしましょう。唄を三線なしで唄ってみるのがいいでしょう。

下がらずに唄えた

注4：この「工」はよく「五」で唄われることがありますが、まず「工」で唄えるようになってから、必要な場面で変えるようにしてください。

「工」で唄えた

注5：

注6：

注7：

チャレンジ 1： 【中級の技術1】

出だしが三線と合っていません。うまく頭の三線の音を外して歌い出しましょう。外しすぎて裏拍になり「トシどーいー」になってはいけません。はじめの音はずしているだけなので「とお」には十分な時間があります。「とおシどーいー」となるように努力しましょう。

チャレンジ 2： 【中級の技術2】

「わかさ」は均等で唄える様に努力してみましょう「わかさ」（タッタタ）ではなく「わかさ」（タッタッタ）です。